

第7祖
法然聖人の教え①



法然聖人像（隆信御影）
[鎌倉時代，京都・知恩院]

本師源空明仏教
憐愍善悪凡夫人
真宗教証興片州
選択本願弘悪世

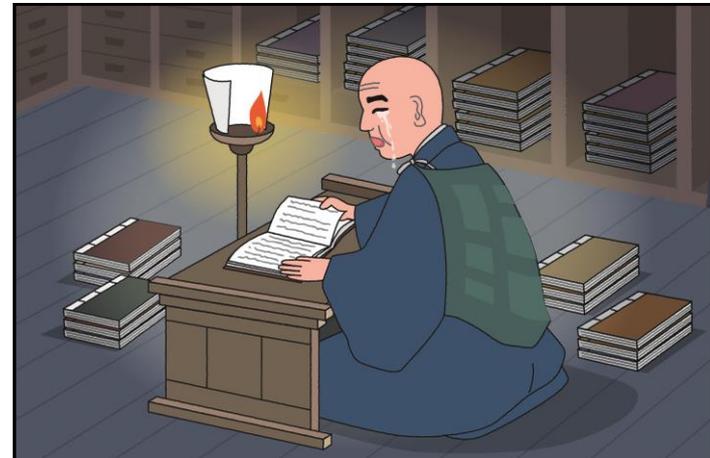
令和6年3月10日(日)
第39回 信行寺仏教講座

法然（源空）聖人の章

- ① 選択本願による悪人の救い
- ② 信と疑との分岐

法然聖人の回心

◆ 比叡山下山の決意
→ 善導大師の導き



比叡山西塔黒谷 報恩蔵

善導大師撰『観経疏』

ただひとすじに阿弥陀
仏の名号を称えるので
ある。いついかなると
きも、また時の長短を
問わず、他力回向の念
仏を行じるのを正定業
という。阿弥陀仏の本
願にしたがうからであ
る。

善導大師撰『観経疏』

一心専念弥陀名号、行住坐
臥不問時節久近念念不捨者、
是名正定之業、順彼仏願故。
一心にもっぱら弥陀の名号を念
じて、行住坐臥に時節の久近を
問はず念念に捨てざるは、これ
を正定の業と名づく、かの仏願
に順ずるが故なり。

(七註四六三頁)

法然聖人の功績

- ①浄土宗を開宗
→浄土教を一宗として独立。
- ②専修念仏を勧める
→称名念仏一つで誰もが往
生できる。

- ①選択本願による悪人の救い

110 憐愍善悪凡夫人

源空聖人は、深く仏の教えをきわめられ、善人も悪人もすべての凡夫を哀れんで、

◎ 仏教に明らかであった

× 仏教を明らかにした

109 本師源空明仏教

=

112 選択本願弘悪世

阿弥陀仏の第十八願

五濁の世

この国に往生浄土の真実の教えを開いて明らかにされ、選択本願の法を五濁の世にお広めになった。

往生浄土のための真実の教え

日本

111 真宗教証興片州

=

「選択」とは・・・

→ 阿弥陀仏による
選捨・選取の義

「往生の因」という点において・・・

選捨・・・ 念仏以外の種々の行

選取・・・ 称名念仏

なぜ称名念仏が選り取られたのか？

称名念仏は勝易の二徳を具える！

勝徳 ... 阿弥陀仏の修行の勝れた功德が込められている

易徳 ... 口に称えることは容易である

↓

勝れた功德が込められた行でありながら、いつでも・どこでも・どんな時でも、簡単に修することができる。

初めに勝劣の義とは、念
 仏は勝れ、ほかの行は劣っ
 ているということである。
 なぜ念仏の一行が最も勝れ
 た行であるかというに、名
 号には阿弥陀仏が持つてお
 られる悟りのあらゆる徳が
 摂まっているからである。
 念仏以外の行はそうではな
 く、おのおの一部分の功德
 だけである。

『選択集』 本願章

諸行と称名念仏を対比すると・・・

勝劣・難易の二義がある！

諸行 ... 行ごとの功德のみ → 劣

念仏 ... 名号に阿弥陀仏のあらゆる功德が摂められている → 勝



諸行

→ 行ごとの功德
= 建物のパーツ
(柱・梁など)



称名念仏

→ あらゆる徳を
円かに具える
= 建物 (完成形)



諸行と称名念仏を対比すると・・・

勝劣・**難易**の二義がある！

諸行 ... 修し難いので誰も
ができるわけでは
ない → **難**

念仏 ... 修し易いので誰で
もできる → **易**

次に難易の義とは、念仏は修め易く諸行は修め難い念仏は称え易いので、すべての人に通じ、諸行は行ずることが難しいから、すべての人には通じないのである。

『選択集』 本願章

称名念仏は**勝易の二徳**を具える！

勝徳 ... 阿弥陀仏の修行の勝れた功德が込められている

易徳 ... 口に称えることは容易である



勝れた功德が込められた行でありながら、いつでも・どこでも・どんな時でも、簡単に修することができる。

しかればすなはち、一切衆生をして平等に往生せしめんがために、難を捨て易を取りて、本願となしたまへるか。もしそれ造像起塔をもつて本願となさば、貧窮困乏の類はさだめて往生の望みを絶たん。しかも富貴のものは少なく、貧賤のものははなはだ多し。

もし智慧高才をもつて本願となさば、愚鈍下智のものはさだめて往生の望みを絶たん。しかも智慧のものは少なく、愚痴のものははなはだ多し。もし多聞多見をもつて本願となさば、少聞少見の輩はさだめて往生の望みを絶たん。しかも多聞のものは少なく、少聞のものははなはだ多し。

もし持戒持律をもつて本願となさば、破戒無戒の人はさだめて往生の望みを絶たん。しかも持戒のものは少なく、破戒のものははなはだ多し。自余の諸行これに准じて知るべし。まさに知るべし、上の諸行等をもつて本願となさば、往生を得るものは少なく、往生せざるものは多からん。

しかればすなはち弥陀如来、法蔵比丘の昔**平等の慈悲に催されて、あまねく一切を摂せんがために**、造像起塔等の諸行をもつて往生の本願となしたまはず。ただ称名念仏一行をもつてその本願となしたまへり。

浄土宗の独立

法然聖人が説いた選択思想は、善人か悪人か、裕福か貧乏か、持戒か破戒か、それらの要因が往生を一切左右しないというものであった。自身を「三学のうつわ者に非ず（三学非器）」とみた法然聖人は、**救済原理を阿弥陀仏の本願に求め**、聖道門を廃し、従来 of 仏教とはまったく枠組みの異なる「浄土門」を独立させた。

愚か者が愚か者のままで生死をはなれる道、それは前代未聞の仏法であり、法然の浄土宗独立は、まさに仏教という概念そのものをくつがえすものであったといえる。

本日のポイント

阿弥陀仏が、あらゆるものを救うために念仏以外の諸行を選び捨て、勝易二徳を具えた称名念仏を選び取られて本願に誓われたことを明らかにし、この世に広められた。